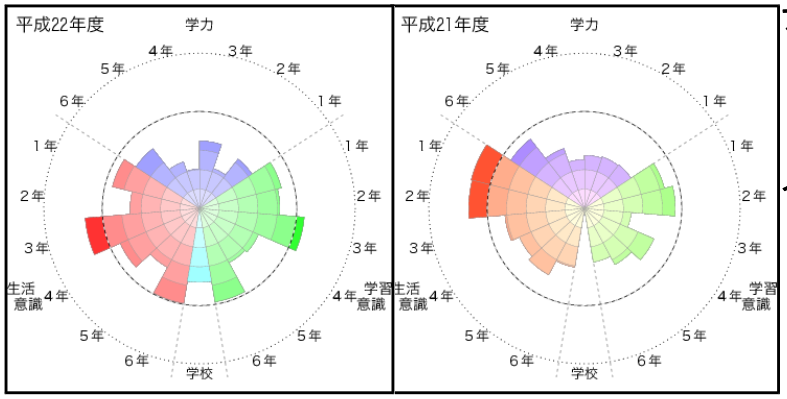
横浜市立飯田北小学校

# 平成２３年度学力向上アクションプラン

## １　横浜市学力・学習状況調査からの実態把握

### （１）分析チャートからの分析




**ア　チャート傾向**

教科の学力は、学年によって異なるが、昨年とほぼ同じような傾向にある。また、学習意識の低い学年は、学力も低い状況がある。

**イ　学校質問紙**

授業のサポート体制や少人数指導を実施し、複数での指導や個に応じた指導ができるようにしているが、児童の学習意欲を高めることや家庭と連携し学習習慣の定着を図る取組に課題がある。児童が問題意識をもって課題に取り組めるような授業づくりや書く活動を取り入れた学習展開を考える必要がある。今後、学力向上にむけたＰＤＣＡサイクルの確立が必要である。

**ウ　児童質問紙**

学校全体として学習意識に課題がある。「算数・国語の勉強の大切さ」「生活や社会に役立つ」と回答している児童が少ない。また、自己意識でも、「一生懸命取り組んでいることがある」「自分にはよいところがある」「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」と回答する児童が少ない。５年・２年では、「人の気持ちを考えて行動している」と回答する子が少なく、児童の自己有用感や自尊感情が薄れている。

### （２）教科学力及び経年分析

前年度とほぼ同じ結果になったが、３年生と６年生が伸びた。学力層で見ると全市と比較した場合、どの学年でもＤ層が大きい。これは、全ての学習に必要な言語能力の力が足りないことや学習意識（意欲）が低いためと考えられる。

### （３）学校の状況・地域の実態

○全学年基本的内容を十分理解できていない児童が３割程度在籍。特に外国籍や外国につながる児童については、質問の意味やことばの意味の理解が不十分なため、学習内容を理解できないことが多い。

○判断力や思考力が弱く、粘り強く最後まで取り組むことが困難な児童が多いので、困難な課題になると解決を求めず集中できない。

○生活面でも配慮を要する児童への対応が多く、家庭の教育力を期待できないことから、家庭学習の継続が困難で、学習習慣が低学年から身につかない児童が多い。

○教員は、授業改善に向けて意欲を持って取り組んでいるが、児童の実態を十分把握した組織的な取組までには至っていない。

## ２　今後の方向

（１）最優先課題

ア　基礎・基本を確実におさえた授業力の向上（学習のねらい・習得内容・考えさせたいことの明確化）

イ　授業サイクルの構築化（聞き合い・学び合い）

ウ　基礎的な読み・書き・計算力を向上させるためのチャレンジタイムの推進

エ　学習に向かう姿勢や生活習慣を低学年から身につけさせ、落ち着いた学習環境の構築

（２）学力向上重点目標「中期学校経営方針」（平成２２年度～平成２４年度）

ア　基礎・基本を確実におさえた授業実践と課題解決学習の具現化により横浜市学力・学習状況調査の標準化得点を１ポイント向上させます。

イ　一人ひとりの児童のニーズや個に応じた楽しくてわかる学習を実践します。

ウ　授業改善に向けて実践的な研修の充実を図ります。